

(資料 1)

平成 28 年度 事 業 報 告

(2016 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日)

本年度における会員現況と主な事業内容を以下項目別に報告する。

1. 会 員 状 況

会員種別	平成 28 年度			参 考	
	2016. 4. 1 現在数 (A)	2017. 3. 31 現在数 (B)	年度内の増減 (B-A)	2016. 3. 31 現在数 (C)	前年度末 との対比 (B-C)
名誉会員	21	20	△1	21	△1
終身会員	166	157	△9	154	3
正 会 員	3, 079	2, 996	△83	3, 046	△50
学生会員	813	830	17	834	△4
(合計)	4, 079	4, 003	△76	4, 055	△52
賛助会員	206 社 (287 口)	211 社 (294 口)	5 社 (7 口)	204 社 (285 口)	7 社 (9 口)
特殊会員	82 社 (108 口)	80 社 (106 口)	△2 社 (△2 口)	82 社 (108 口)	△2 社 (△2 口)

2. 定款・規則等の制定・改正

- | | |
|----------------------------|----------------|
| (1) 特定個人情報の適正な取り扱いに関する基本方針 | (2016. 6. 24) |
| (2) 特定個人情報取扱規定 | (2016. 6. 24) |
| (3) 寄付金規則 | (2016. 6. 24) |
| (4) 学会活動貢献賞選定規則の改正 | (2016. 7. 22) |
| (5) 学会活動貢献賞選定規則の改正 | (2016. 11. 22) |
| (6) 常設寄付制度における寄付金活用の基本方針 | (2016. 3. 15) |

3. 機 関 誌 の 刊 行

- (1) 日本音響学会誌
本期間は毎月 1 日 (1 号は 12 月 25 日) を発行日とし、次の 12 冊を刊行した。

72 巻 4 号～73 巻 3 号 (2016 年 4 月～2017 年 3 月)

巻 号	72 巻										73 巻			計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
本文ページ	54	68	60	84	92	86	60	64	60	80	58	70	836	
主 な 論 文 ・ 記 事	巻頭言									2			2	
	音叉	2			2		2						6	
	論文	17 (2)	15 (2)	28 (3)	25 (3)	23 (3)	29 (3)	27 (3)	18 (2)	22 (2)	16 (2)	19 (2)	21 (2)	260 (29)
	研究速報	3 (1)		3 (1)	3 (1)					3 (1)	4 (1)			16 (5)
	解説 (小特集を含む)	28 (4)	37 (6)	22 (3)	46 (23)	27 (3)	46 (23)	25 (3)	38 (7)	26 (4)	48 (6)	31 (4)	40 (6)	414 (92)
会議報告 (シンポジウム/活動報告)		7 (2)								2 (1)			9 (3)	

主な 論文 記事	連載企画			3		2		2				2	2	11 (5)
	研究発表会報告					1						1		2
	選奨記事・紹介記事					11	1							12
	研究会発表論文一覧					24								24
	コーヒーブ레이크	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
	72巻総目次										4			4
	AST目次		1		1		2		1		1		1	7
	AST abstract		2		2		2		2		1		2	11
	学会記事等	1	3	1	2	1	3	1	2	2	3	2	1	22
	投稿規定											18		18
編集後記	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	
会告	15	35	33	21	23	63	27	25	19	14	59	15	349	
広告	9	11	11	13	9	11	10	12	10	10	9	13	128	
発行部数	4700	4700	4700	4700	4700	4600	4600	4600	4600	4600	4600	4600	55700	
小特集タイトル		※1		※2		※3		※4		※5		※6		

注 1) 欄中の () 内数値は編数。

2) 会告の内容は、研究会開催案内、音響関係国内並びに国際会議、その他周知記事である。

※1 はじめての超音波圧電素子 一圧電材料の選択法、特性測定法や等価回路、そして応用例について—

2 音響に関する施設と装置 (前編)

3 音響に関する施設と装置 (後編)

4 音響に関する連成解析

5 音声言語処理における深層学習

6 頭部伝達関数とその応用

(2) 英文論文誌 Acoustical Science and Technology

本期間は、2016年5月、7月、9月、11月、2017年1月、3月の各1日を発行日とし次の6冊をオンラインジャーナルとして刊行した。

なお、AST誌への投稿システムをJSTの協力により、“ScholarOne”システムに移行した。

Vol. 37 No. 3~Vol. 38 No. 2 (2016年5月~2017年3月)

Vol.		Vol. 37				Vol. 38		計
No.		3	4	5	6	1	2	
本文ページ		44	48	76	68	50	62	348
主な 論文 記事	Paper	24 (3)	8 (1)	20 (2)	48 (5)	22 (2)	36 (4)	158 (17)
	Technical Report	6 (1)	8 (1)	8 (1)		8 (1)	9 (1)	39 (5)
	Acoustical Letter	10 (3)	2 (1)	15 (4)	11 (3)	15 (4)		53 (15)
	Invited Review		5 (1)	20 (2)			12 (1)	37 (4)
	Short Note		5 (2)					5 (2)
	Invited Paper		9 (1)					9 (1)
	Translated Paper			8 (1)				8 (1)
	Translated Short Note		7 (2)					7 (2)
	和文誌英文目次	2	2	3	2	2	2	13
	和文誌論文等内容梗概	2	2	2	2	2	2	12
Vol. 37 総目次				5			5	
特集号タイトル				※1				

注) 欄中の () 内数値は編数。

※1 Special Issue on Education in Acoustics

- (3) 科学技術振興機構が主催する電子ジャーナル共同利用センター (J-STAGE) のサイト (URL <http://www.jstage.jst.go.jp/browse/ast/-char/en>) で、引き続いて Acoustical Science and Technology 誌 (AST 誌) を公開した。

4. 研究発表会の開催

- (1) 春季研究発表会は、2016年3月9日、10日、11日の3日間、桐蔭横浜大学を会場として開催した。参加者実数は、1,382名であった。

申込件数は635件、このうち、スペシャルセッションは10テーマ、「ロボットと音声対話システム」、「音楽音響と音楽関連産業 III」、「2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて—音バリアフリーの観点から—」、「音商標 (Sound Trademark) の展開と可能性」、「聞こえの困難の問題における聴覚研究の役割を考える」、「超音波医学—現状と展望—」、「インフラサウンド (超低周波音) を用いた災害監視」、「災害等非常時屋外拡声システムに関する最近の研究動向」、「音の教育あるいは研究における先進的デモンストレーション」、「音響学の基礎 1 (音響物理)」で実施した。

学生並びに新たに研究発表会に参加した方を対象とするビギナーズセミナーを開催した。なお、賛助会員と学生との交流の場として利用いただくことを目的とした交流会を開催した。また、賛助会員のポスター展示を実施し、5社が展示を行った。

- (2) 秋季研究発表会は、2016年9月14日、15日、16日の3日間、富山大学五福キャンパスを会場として開催した。参加者実数は、926名であった。

申込件数は512件、このうち、スペシャルセッションは9件、「2020東京オリンピックに向けた騒音振動分野が担うべき役割」、「音響技術は音支援に役立つか」、「音響学の基礎 2 (音響生理/心理)」、「音のデザインの教育」、「非接触音響技術の最近の動向」、「雑音環境下での音の信号処理」、「聴覚生理の現状と今後 —生物音響の立場から—」、「災害等非常時屋外拡声システムに関する最近の研究動向」、「音響に関する国際規格審議の最前線—新たな研究テーマを探る—」で実施した。

学生並びに新たに研究発表会に参加した方を対象とするビギナーズセミナーを開催した。また、賛助会員のポスター展示を実施し、5社が展示を行った。

なお、9月17日、明治安田生命ホール富山駅前において、北陸支部創立10周年記念式典・記念講演会を開催した。講演会は、「音響学会とは?」、「とやまの音風景」、「高岡の音 (梵鐘)」の3件の講演で構成した。

- (3) 春季並びに秋季の発表分野、講演件数及び特別講演は次表のとおりである。

分野別		春季	秋季
講演件数	音声 A	72	40
	音声 B	89	61
	聴覚/聴覚・音声	39	8
	電気音響	127	83
	電気音響/聴覚(共催)		50
	音楽音響	25	23
	騒音・振動	25	25
	建築音響	37	58
	超音波/水中音響	101	65
	アコースティックイメージング	13	10
	音響教育	3	4
	音支援 (音バリアフリー)		9
	熱音響技術	10	10
	音のデザイン	14	6
スペシャルセッション (春季10テーマ)	80	-	

スペシャルセッション (秋季9テーマ)	-	59
計	635	512

特別講演	演 題	人間とスポーツ(私と柔道)	深海底から見た富山の生い立ち
	講 師	桐蔭横浜大学副学長 佐藤 宣践 氏	富山大学名誉教授 竹内 章 氏

(4) 技術動向レビューの実施

2016年春季は、2016年3月9日に「主観を反映する生体反応」をテーマとして実施した。2016年秋季は、2016年9月14日に「風車騒音に関する最近の動向 ―評価・影響から監視まで―」をテーマとして実施した。

5. 研究会の開催

(1) 本年度に実施した各研究会の活動概要は次表のとおりである。

研究会名	委員長 (敬称略)	開催回数	発表件数	備考
超音波	遠藤 信行	10	124	電気音響, アコースティックイメージング研究会との合同開催の分を含む
騒音・振動	矢野 隆	10	53	アコースティックイメージング研究会との合同開催分の含む
電気音響	水町 光徳	7	194	超音波, 音声, 聴覚研究会, 音響教育委員会との合同開催の分を含む
音声	間野 一則	7	155	電気音響, 聴覚研究会との合同開催の分を含む
聴覚	平原 達也	9	112	電気音響, 音声研究会との合同開催の分を含む
建築音響	尾本 章	10	44	
音楽音響	水谷 孝一	8	71	
アコースティック イメージング	坂本 慎一	5	42	超音波, 聴覚研究会との合同開催の分を含む
音響教育委員会	西村 明	1	6	電気音響研究会との合同開催の分を含む
合計		67	801	

(2) 騒音・振動, 聴覚, 建築音響及び音楽音響研究会資料の年間購読の請求事務は学会事務局で実施した。

6. 国際交流

(1) 国際会議の開催・準備等

ア. 2016年11月28日～12月2日の間, 米国音響学会と共催して, ハワイ(ホノルル市, Hilton Hawaiian Village)において第5回日米ジョイントミーティングを開催した。なお, 参加者は2206名, 講演件数は2050件であった。

イ. 韓国音響学会と共催して ASJ-ASK ジョイントセッションを計画, 同準備委員会を設置し, 2017年秋季研究発表会での開催に向けた準備を開始した。

(2) 当学会が加盟団体となっている国際音響学会(ICA), 国際騒音制御工学会(I-INCE)の活動に協力した。なお, 平成28年度は3年毎に開催される国際音響学会の総会があり, その中で行われた理事選挙の結果, 当学会会員が理事に再選された。

- (3) 西太平洋地区音響学会(WESPAC)に協力した。
- (4) 当学会が国内審議団体となっている ISO/TC43 国際会議を 2018 年 11 月 12 日～16 日の間、島根県松江市での開催を予定し、ISO/TC43 松江総会準備委員会(鈴木陽一委員長)を組織し諸準備を行った。

7. 音響規格の調査・作成

- (1) 当学会で原案作成を行った日本工業規格(JIS)に関して 5 年ごとの見直し作業を行った。
- (2) 音響に関する国際規格 (ISO/TC 43, 同/SC1, 同/SC2, 同/SC3 及び IEC/TC29 関係) の審議を日本規格協会から委託され、それぞれの専門委員会(鈴木陽一委員長[ISO/TC43・TC43/SC1], 佐藤 洋委員長[ISO/TC43/SC2], 堀内 竜三委員長[IEC/TC29]) において審議し、結果をとりまとめて報告した。

8. 調査研究委員会の活動

- (1) 道路交通騒音予測手法の調査研究
 (株)高速道路総合技術研究所との共同研究により、「道路交通騒音の予測精度向上に関する研究」を実施した。道路交通騒音調査研究委員会(坂本慎一委員長)が作業を実施した。
- (2) 音バリアフリーに関する調査研究
 音バリアフリー調査研究委員会(白石君男委員長)において、聴覚障害者のための会話システムの研究、デバイスの研究・開発・実用化及び普及を目的とした活動を行った。
- (3) 熱音響技術に関する調査研究
 熱音響技術調査研究委員会(渡辺好章委員長)において、既存のエネルギー変換システムが抱える廃熱の利用を目的とする調査研究を実施した。
- (4) 音のデザインに関する調査研究
 音のデザイン調査研究委員会(岩宮眞一郎委員長)において、製品音、サイン音、サウンドスケープ、音環境等の音のデザインについて、包括的に調査研究を行い、音のデザインの必要性、可能性、将来性を発信することを目的とする活動を実施した。
- (5) 災害等非常時屋外拡声システムのあり方に関する調査研究
 災害等非常時屋外拡声システムのあり方に関する技術調査研究委員会(鈴木陽一委員長)において、防災行政無線子局の屋外拡声システム等に関する調査研究を行った。
- (6) 軟骨伝導に関する調査研究
 軟骨伝導の基本メカニズムとその応用技術等について検討する軟骨伝導調査研究委員会(細井裕司委員長)において、軟骨伝導応用機器の普及、軟骨伝導音の校正法の規定等に関する調査研究を行った。
- (7) 生物音響に関する調査研究
 生物音響に関する研究の進歩と研究母体の拡大を図り、生物音響学分野の研究成果の発表、情報交換、連絡連携を目的とする生物音響調査研究委員会(力丸 裕委員長)において、調査研究を行った。
- (8) 音声コミュニケーションに関する調査研究
 音声コミュニケーション技術に関連のある様々な分野の研究者が活発に議論できる環境の提供を目的とする音声コミュニケーション調査研究委員会(荒井隆行委員長)を設置し、調査研究を行った。

9. 学術委員会関連委員会の活動

- (1) 音響教育に関する調査研究
 音響教育委員会(西村 明委員長)において音響学の教育と教育研究及びその普及を主たる目的として委員会活動を行った。なお、8月13日、14日に国立科学博物館「夏休みサイエンススクエア」に出展、また9月24日にソニー・太陽(株)、音バリアフリー調査研究委員会

と共催して「音の科学教室」を開催した。日米音響学会ジョイントミーティングに併せて、ハワイ在住の高校生を対象に「ペットボトルと牛乳パックで作るヘッドホンの工作」を実施した。

10. 選 奨

(1) 功 績 賞

音響に関する学術又は関連事業に対し、特別の功績があると認められる方に贈られるもので、第40回功績賞受賞者は、斎藤 繁実、寺尾 道仁、山田 一郎の3氏に決定した。なお、賞の贈呈は通常総会の際に行う。

(2) 佐藤論文賞

音響学に関し学術上及び技術上貢献するところが大きい研究業績を本会会誌に発表した方に贈られるもので、学会誌71巻1号～12号、72巻1号～12号並びにAST誌Vol.36 No.1～No.6, Vol.37 No.1～No.6に掲載された論文中から優秀な論文を選び、2017年春季研究発表会選奨会場(2017年3月16日)で本賞を贈呈した。

第57回佐藤論文賞受賞論文(敬称略)

○High-intensity aerial ultrasonic source with a stripe-mode vibrating plate for improving convergence capability」AST誌36巻3号(2015)

伊藤 洋一(日本大学)

○「Sound-space recording and binaural presentation system based on a 252-channel microphone array」AST誌36巻6号(2015)

坂本 修一(東北大学), 本郷 哲(仙台高等専門学校), 岡本 拓磨(国立研究開発法人 情報通信研究機構), 岩谷 幸雄(東北学院大学), 鈴木 陽一(東北大学)

(3) 環境音響研究賞

環境音響学の発展に貢献した、主として建築音響分野又は騒音分野に関連する一連の研究を対象とするもので、会員から推薦のあった候補者から優秀な者を選び、2017年春季研究発表会選奨会場(2017年3月16日)で本賞を贈呈した。

第8回環境音響研究賞受賞者(敬称略)

○佐久間 哲哉(東京大学)

「音響部材と室内音場の解析・測定に関する一連の研究」

(4) 独創研究奨励賞 板倉記念

音響学に関する独創的な研究を行った若手会員の方に贈られるもので、会員から推薦のあった候補者から優秀な者を選び、2017年春季研究発表会選奨会場(2017年3月16日)で本賞を贈呈した。

第12回独創研究奨励賞 板倉記念 受賞者(敬称略)

○高道 慎之介(東京大学)

「変調スペクトルに基づく高品質な統計的音声合成」

○大塚 翔(NTTコミュニケーション科学基礎研究所)

「耳音響放射現象に基づく、内耳における音響情報処理機構の解明」

(5) 栗屋 潔学術奨励賞

有為と認められる新進の研究・技術者の方に贈られるもので、2016年春季研究発表会並びに秋季研究発表会の講演者のうちの本賞受賞対象者から優秀な者を選び、2016年秋季研究発表会選奨会場(2016年9月15日)及び2017年春季研究発表会選奨会場(2017年3月16日)でそれぞれ本賞を贈呈した。

第40回栗屋 潔学術奨励賞受賞者(敬称略/2016年春季研究発表会, 2名)

- 辻村 壮平 (公益財団法人鉄道総合技術研究所)
「鉄道駅における案内放送の発話速度の差異と聴感印象の関係」
- マーク デルクローア (NTT コミュニケーション科学基礎研究所)
「音響コンテキスト適応型 DNN に基づく高速音響モデル適応」

第 41 回栗屋 潔学術奨励賞受賞者 (敬称略/2016 年秋季研究発表会, 5 名)

- 李 孝珍 (東京大学)
「スピーチプライバシーを考慮した音声了解度の評価方法に関する検討」
- 江田 和司 ((株)アヅマネジ/東京大学)
「室内インパルス応答の反射音構造分析による音場の拡散性評価 —縮尺模型実験による検討—」
- 大隅 歩 (日本大学)
「超高強度超音波を利用したモルタル浅層き裂のサーマルイメージング」
- 小泉 悠馬 (NTT メディアインテリジェンス研究所)
「聴感評点を最大化するための強化学習に基づく音源強調の検討」
- 武岡 成人 (静岡理工科大学)
「ランダム信号との乗算出力による多チャンネル駆動法への $\Delta \Sigma$ 変調の導入」

(6) 学生優秀発表賞

春季又は秋季研究発表会において優秀な発表を行った学生会員に贈られるもので、2016 年春季研究発表会並びに秋季研究発表会の講演者のうちの本賞受賞対象者から優秀な者を選び、2016 年秋季研究発表会選奨会場(2016 年 9 月 15 日)及び 2017 年春季研究発表会選奨会場(2017 年 3 月 16 日)でそれぞれ本賞を贈呈した。

第 13 回学生優秀発表賞受賞者 (敬称略/2016 年春季研究発表会, 21 名)

Irwansyah(熊本大学), 石川 憲治(早稲田大学), 伊藤 一陽(千葉大学), 井上 昂治(京都大学), 大町 基(早稲田大学), 岡田 昌大(九州大学), 川上 雄太(長岡技術科学大学), 桑原 潤(東北工業大学), Thao Linh Nguyen(熊本大学), 沢田 慶(名古屋工業大学), 柴又 賢史(東京工業大学), 菅原 彬子(東京大学), 角谷 美和(同志社大学), 関 貴志(電気通信大学), 高尾 麻衣子(東京工業大学), 田尻 祐介(奈良先端科学技術大学院大学), 田村 俊介(九州大学), チョウ イ(東大), 松野 雄也(東北大学), 山中 航太(東京工業大学), 李 莉(東京大学)

第 14 回学生優秀発表賞受賞者 (敬称略/2016 年秋季研究発表会, 20 名)

芦川 博人(早稲田大学), 荒木 陽三(九州大学), 井上 敦登(早稲田大学), 上田 怜奈(神戸大学), 植野 夏樹(東京大学), 宇澤 志保美(神戸大学), 江田 康太郎(早稲田大学), 大竹 翔太(東北大学), 小林 真萌(東京都立産業技術高等専門学校), 小谷野 雄史(早稲田大学), 齋藤 佑樹(東京大学), 齊藤 良二(早稲田大学), 白水 豪気(九州大学), 関 翔悟(名古屋大学), 田中 智大(東京工業大学), 中田 晶平(千葉工業大学), 中村 歩己(早稲田大学), 保坂 儒人(秋田大学), 望月 紫穂野(首都大学東京), 山田 恭史(同志社大学)

(7) 技術開発賞

音響に関する工学技術の進歩発展に特に貢献したと認められる本会賛助会員の代表者, 賛助会員所属の個人, グループに贈られるもので, 公募により推薦された候補の中から優秀なものを選んだ。なお, 賞の贈呈は通常総会の際に行う。

第 25 回技術開発賞受賞者 (敬称略)

- 応用電機(株)
「超音波骨密度計 LD-100」
米田勇太郎, 堀井 薫, 渡辺元一, 真野 功 (応用電機(株))

○(株)小野測器

「4ch ビームフォーミング音源可視化システム」

瀬戸真智子, 三神圭司, 内山修一, 三浦雄文, 平田秀徳, 伊藤幹也 ((株)小野測器)

(8) 学会活動貢献賞

本学会活動の活性化に多大な貢献があった若手の正会員又は学生会員を顕彰する目的で贈られるもので、今年度は次の8名を選定した。なお、2017年春季研究発表会選奨会場(2017年3月15日)で本賞を贈呈した。

第4回学会活動貢献賞受賞者(敬称略)

○及川 靖広(早稲田大学)[日米音響学会 JM 実行委員会幹事としての貢献に対して]

○木谷 俊介(北陸大学)[音響学入門ペディア編集委員会代表としての貢献に対して]

○高田 正幸(九州大学)[音のデザイン調査研究委員会幹事としての貢献に対して]

○西村 竜一(和歌山大学)[広報・電子化委員会委員としての貢献に対して]

○野村 英之(電気通信大学)[日米音響学会 JM 実行委員会幹事としての貢献に対して]

○畑中 信一(電気通信大学)[超音波研究委員会幹事としての貢献に対して]

○森本 隆司(リオン(株))[聴覚研究委員会幹事としての貢献に対して]

○矢入 幹記(鹿島建設(株))[建築音響研究委員会副委員長としての貢献に対して]

1.1. 講習会, 講演会及びセミナーの開催

(1) 講習会(敬称略)

事業委員会(片岡章俊委員長)が今年度を実施した講習会及び技術セミナーは以下のとおりである。

ア. 「音響技術のアプリ化とスマートフォンやタブレット端末への実装」

(第146回技術講習会)

期 日; 2016年6月2日~3日 会場; 全国家電会館

講 師; 坂本真一((株)オトデザイナーズ), 古晒貴光((株)アプサ)
田中 勉((株)アローズネクスト)

受講者数; 25名

イ. 「音源定位と音源分離の基礎」(第147回技術講習会)

期 日; 2016年6月7日~8日 会場; 全国家電会館

講 師; 浅野 太(工学院大学)

受講者数; 20名

ウ. 「デジタル信号処理の基礎と最近のトピックス」(第148回技術講習会)

期 日; 2016年7月4日~5日 会場; 早稲田大学西早稲田キャンパス

講 師; 及川靖広(早稲田大学)

受講者数; 27名

エ. 「オーディオトランスデューサの仕組みと基本技術」(第149回技術講習会)

期 日; 2016年7月13日~14日 会場; 全国家電会館

講 師; 大賀寿郎(芝浦工業大学名誉教授)

受講者数; 11名

オ. 「インパルス応答計測の基礎」(第150回技術講習会)

期 日; 2016年8月26日 会場; 東京電機大学北千住キャンパス

講 師; 金田 豊(東京電機大学)

受講者数; 16名

カ. 「3次元音響の基礎と応用」(第151回技術講習会)

期 日; 2016年10月11日 会場; 全国家電会館

講 師; 飯田一博(千葉工業大学)

受講者数；28名

キ.「空中超音波センサの基礎と応用」(第152回技術講習会)

期 日；2016年11月10日～11日 会場；全国家電会館

講 師；浅田隆昭(村田製作所), 鎌倉友男(電気通信大学), 蜂屋弘之(東京工業大学)

受講者数；32名

(2) サマーセミナー(敬称略)

ア.「音響学の基礎と最近のトピックス」(第18回サマーセミナー)

期 日；2016年9月4日～6日 会場；長野県白馬・シエラリゾート白馬

講 師；池田雄介(早稲田大学), 伊藤洋一(日本大学), 及川靖広(早稲田大学),
大内康裕(早稲田大学), 大川茂樹(千葉工業大学), 亀川 徹(東京藝術大学),
豊田政弘(関西大学), 長谷川英之(富山大学), 古川茂人(NTT),
山崎芳男(早稲田大学)

受講者数；49名

(3) ビギナーズセミナー

活性化・若手育成委員会(猿渡 洋委員長)で初学者を対象にビギナーズセミナーを開催した。2016年春季研究発表会では「研究万事塞翁が馬 ～私がビギナーの頃を振り返って～」をテーマとして、2016年秋季研究発表会では「音の計測に役立つツールと書籍の紹介」をテーマとして実施した。

12. 出版事業

(1) 出版委員会に属する3つのシリーズ編集委員会, 音響テクノロジーシリーズ編集委員会(坂本慎一委員長), 音響入門シリーズ編集委員会(羽田陽一委員長), 音響サイエンスシリーズ編集委員会(平原達也委員長)において, それぞれ企画内容について審議し, 出版した。なお, 平成28年度の発行状況は以下の通りである。

ア. 音響サイエンスシリーズ

・ 音のピッチ知覚

(音響サイエンスシリーズ15)(2016/12/28発行)

イ. 音響入門シリーズ

・ 音と生活(CD-ROM付)

(音響入門シリーズA-4)(2016/11/22発行)

(2) 音響学講座編集委員会(安藤彰男委員長)において, それぞれの巻について, 担当委員を決めて編集作業を進めた。

(3) 音響用語辞典編集委員会(伊藤彰則委員長)において, 用語の選定作業を行い, 編集作業を進めた。

(4) 音響学入門ペディア編集委員会(羽田陽一委員長)において, 編集作業を行い, 「音響学入門ペディア(2017/03/15刊行)」を刊行した。

13. 学会電子化推進に関する活動

広報・電子化委員会(尾本 章委員長, 小澤 賢司副委員長)において, Web, メーリングリスト, Facebook 及び研究発表会会場における広報活動等, 各種会員サービスを行った。

14. 会勢拡大及び広報に関する活動

(1) 会勢拡大委員会(亀川 徹委員長, 坂本 修一副委員長)において, 会員の増加策等会勢の拡大につながる諸策を検討し, 会勢拡大にむけた試案をとりまとめた。今期は, 非会員の勧誘をはかるために, 各研究委員会や非会員が所属する学会と連携して研究会等を企画した。

(2) 活性化・若手育成委員会(猿渡 洋委員長)において, サマーセミナーの実施, ビギナーズセミナーの開催, 学生フォーラムの活動の活性化を図る活動を行った。

15. 財政改善に関する活動

- (1) 財務改善委員会（飯田一博委員長，吉村純一副委員長）において，賛助会員のメリットの整理・追加を行い，入会の勧誘を行った。また，研究発表会ポスターセッションの空きコマを有効に活用するため，賛助会員にポスター展示の希望を募り，実施した。
- (2) 2017年春季研究発表会において，当学会賛助会員と主に博士後期課程在学の学生会員を対象として情報交換を目的とする交流会を実施した。

16. 寄付制度の新設と学会活動活性化

平成27年度から寄付制度を新設し，平成28年度会費の請求に併せて名誉会員，終身会員，正会員にご寄付を募った。なお，拠出いただいた寄付金は，学会活性化積立資産として積み立て，学会活性化に関する事業に支出する。

17. 通常総会の開催

第50回通常総会は，2016年5月28日，全国家電会館において開催した。なお，出席者は，115名（うち議決権行使書の提出による出席83名）であった。

18. 理事会，役員会並びに委員会活動

- (1) 理事会
平成28年度理事会は，2016年8月を除く毎月，計11回開催した。
- (2) 役員会
平成28年度役員会は，2016年8月を除く毎月，計11回開催した。
- (3) 企画委員会
平成28年度企画委員会（伊藤洋一委員長）は，2016年8月を除く毎月，計11回開催した。
- (4) 編集委員会
平成28年度編集委員会（伊藤彰則委員長）は，2016年5月，7月，9月，11月，2017年1月及び3月の計6回開催した。
- (5) 学術委員会
平成28年度学術委員会（安藤彰男委員長）は，2016年6月，9月，12月，2017年3月の4回開催した。
- (6) 研究発表会準備委員会
平成28年度研究発表会準備委員会（土屋隆生委員長）は，2016年6月，9月，12月，2017年3月の4回開催した。なお，研究発表会プログラム編成委員会は，6月，12月の2回開催した。
- (7) 広報・電子化委員会
平成28年度広報・電子化委員会（尾本章委員長，小澤賢司副委員長）は，2016年9月，2017年3月の2回開催した。
- (8) 事業委員会
平成28年度事業委員会（片岡章俊委員長）は，2016年9月，2017年3月の2回開催した。
- (9) 出版委員会
平成28年度出版委員会（羽田陽一委員長）は，2017年3月に回開催した。
- (10) 会勢拡大委員会
平成28年度会勢拡大委員会（亀川徹委員長）は2016年9月，2017年3月の2回開催した。

19. 他学協会等からの共催等依頼

区 分	件 数	摘 要
共 催	1 件	(一社)電子情報通信学会
協 賛	40 件	(公社)日本騒音制御工学会ほか
後 援	3 件	(一社)日本建築学会ほか
計	44 件	

20. 支部所属会員

(1) 関西支部

会員種別	平成 28 年度			参 考	
	2016. 4. 1 現在数(A)	2017. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減 (B-A)	2016. 3. 31 現在数(C)	前年度末との 対比(B-C)
名誉会員	7	6	△1	7	△1
終身会員	23	23	0	22	1
正 会 員	482	466	△16	472	△6
学生会員	182	169	△13	192	△23
(合計)	694	664	△30	693	△29

(2) 東北支部

会員種別	平成 28 年度			参 考	
	2016. 4. 1 現在数(A)	2017. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減 (B-A)	2016. 3. 31 現在数(C)	前年度末との 対比(B-C)
名誉会員	3	3	0	3	0
終身会員	14	13	△1	13	0
正 会 員	141	138	△3	141	△3
学生会員	85	79	△6	86	△7
(合計)	243	233	△10	243	△10

(3) 東海支部

会員種別	平成 28 年度			参 考	
	2016. 4. 1 現在数(A)	2017. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減 (B-A)	2016. 3. 31 現在数(C)	前年度末との 対比(B-C)
名誉会員	1	1	0	1	0
終身会員	15	15	0	14	1
正 会 員	279	277	△2	274	3
学生会員	95	79	△16	98	△19
(合計)	390	372	△18	387	△15

(4) 九州支部

会員種別	平成 28 年度			参 考	
	2016. 4. 1 現在数(A)	2017. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減 (B-A)	2016. 3. 31 現在数(C)	前年度末との 対比(B-C)
名誉会員	0	0	0	0	0
終身会員	7	7	0	7	0
正 会 員	172	168	△4	171	△3
学生会員	79	64	△15	76	△12
(合計)	258	239	△19	254	△15

(5) 北陸支部

会員種別	平成 28 年度			参 考	
	2016. 4. 1 現在数(A)	2017. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減 (B-A)	2016. 3. 31 現在数(C)	前年度末との 対比(B-C)
名誉会員	0	0	0	0	0

終身会員	0	0	0	0	0
正会員	70	74	4	69	5
学生会員	45	60	15	43	17
(合計)	115	134	19	112	22

2 1. 支部の事業

(1) 関西支部

ア. 支部役員会

支部役員会は、2016年4月、6月、10月、12月、2017年1月、3月の6回開催。

イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
支部総会	28. 4. 22	同志社大学今出川キャンパス	出席者 177 名(うち委任状 158 通) / 定足数 99 名
講演会・見学会	28. 4. 22	NHK 京都放送局	NHK 京都放送局の概要説明と施設や設備機材などの見学 参加者 31 名
建築音響研究会	28. 6. 24	関西大学千里山キャンパス	発表 4 件 参加者 33 名
音声研究会	28. 8. 24	京都大学学術情報メディアセンター	発表件数 14 参加者 74 名
講演会・見学会	28. 10. 20	サントリー山崎蒸留所	蒸留所見学及び講演 参加者 15 名
建築音響研究会	28. 10. 21	京都大学桂キャンパス	発表 4 件 参加者 22 名
第 19 回若手研究者交流研究発表会	28. 12. 18	関西大学 100 周年記念会館	講演会, ポスターセッション, 懇親会 企業展示 4 件, ポスター発表 53 件 参加者 136 名
騒音・振動研究会	29. 1. 20	神戸大学滝川記念学術交流会館	発表 4 件 参加者 18 名
超音波／電気音響研究会(併催)	29. 1. 25 ～ 26	同志社大学室町キャンパス	発表 54 件 参加者 138 名
第 3 回関西企業における音響技術の研究開発談話会	29. 2. 21	第一部 パナソニックセンター 毎日放送本社 M 館 第二部 同志社大学大阪サテライトキャンパス	第一部 システム視聴, 見学 参加者 27 名 参加者 44 名 第二部 談話会 発表 6 件 参加者 62 名
聴覚研究会	29. 3. 27	京都市立芸術大学	発表 9 件 参加者 35 名
関西支部聴覚基礎理論談話会	29. 3. 27 ～ 28	京都市立芸術大学	3 月 27 日 発表 1 件 参加者 35 名 3 月 28 日 発表 2 件 参加者 32 名

(2) 東北支部

ア. 支部役員会

支部役員会は東北大学大学院工学研究科において、2017年2月に開催。

イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
支部総会	28. 4. 22	東北大学工学部	

第 1193 回学術講演会	28. 4. 13	東北大学工学部	「マルチモーダル知覚過程の理解に基づく高感性音空間システムの実現」 講師 鈴木陽一 氏(東北大学) 来聴者 150 名
音声研究会	28. 7. 28 ～ 30	山形・天童温泉「滝の湯」	
聴覚／電気音響研究会	28. 8. 9 ～ 10	東北学院大学多賀城キャンパス	
電気関係学会東北支部連合大会	28. 8. 30 ～ 31	東北工業大学八木山キャンパス	発表件数 250 件, セッション数 43, 参加者 512 名 (のべ) 広告掲載企業 38 社, 展示会出展企業 11 社, 賛助企業 7 社 特別講演「垂直磁気記録とビックデータ時代」 講師: 岩崎 俊一 氏(東北工業大学名誉理事長) 注) 台風のため中止
超音波研究会	28. 10. 7	日本大学工学部	
東北大学電気通信研究所一般公開 2016(後援)	28. 10. 8 ～ 9	東北大学電気通信研究所	来聴者 2616 名
平成 29 年東北地区若手研究者研究発表会(共催)	29. 3. 4	東北学院大学多賀城キャンパス	「音・光・電波・エネルギー・システムとその応用」 講演件数 119 件, 参加者 165 名
騒音・振動／アコースティックイメージング研究会	28. 10. 16	八戸工業大学	

ウ. 若手研究者優秀論文賞

東北支部電気関係学会支部連合大会及び同若手研究者研究発表会における若手研究者を対象として、幹事団でそれぞれ推薦し、推薦された発表者について審査を行った。その結果、電気関係学会東北支部連合大会から 1 名、若手研究者研究発表会から 4 名の受賞者を決定した。

(3) 東 海 支 部

ア. 支部役員会

支部役員会は、2016 年 3 月、1 月に開催。

イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
支部総会・講演会	28. 3. 25	オフィスパーク名駅プレミアムホール	出席者 19 名 講演 1 件
騒音・振動研究会	28. 5. 19	大同大学滝春キャンパス	講演件数 7 件
聴覚研究会(後援)	28. 5. 19. ～ 20	豊橋技術科学大学	講演件数 14 件
東海地区音声関連研究室修士論文中間発表会	28. 8. 6	名古屋大学	参加者 146 名 講演件数 47 件
電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会	28. 9. 12 ～ 13	豊田工業高等専門学校	参加者 881 名 シンポジウム 3 テーマ 一般講演 490597 件 音響学会関連発表 11 件
建築音響、騒音・振動関連若手研究発表会	28. 10. 8	愛知工業大学本山キャンパス	参加者 12 名 講演 5 件
音声研究会	28. 10. 27	静岡大学	参加者 50 名 講演軒数 9 件
支部見学会	28. 10. 28	東海ラジオ(株)	参加者 18 名

聴覚研究会	28. 11. 18. ～ 19	愛知淑徳大学	参加者 22 名 講演件数 7 件
建築音響研究会	29. 1. 26	東海市芸術劇場	参加者 34 名 講演件数 2 件

ウ. 学生奨励制度

東海支部が主催又は共催した修士論文中間発表会, 電気関係学会支部連合大会において優秀な講演を行った学生会員を対象として表彰した。今年は発表奨励 17 名, 優秀発表賞 6 名であった。

(4) 九 州 支 部

ア. 支部役員会

支部役員会は, 2017 年 3 月に開催。

イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
超音波研究会	28. 7. 29	九州大学筑紫キャンパス	共催
電気・情報関係学会九州支部連合大会	28. 9. 29 ～ 30	宮崎大学木花キャンパス	共催 講演件数 400 件, うち音響関係 6 件
電気音響研究会	28. 11. 17 ～ 18	大分市コンパルホール	共催
聴覚研究会	28. 12. 17 ～ 18	九州大学	共催
音楽音響研究会	29. 1. 7	九州大学大橋キャンパス	共催
第 8 回嶺南九州音響学会議 (YKJCA2017)	29. 2. 4	韓国・釜山 釜慶大学	主催 発表件数 34 件(日本 21 件, 韓国 13 件), 参加者 52 名(日本 35 名, 韓国 17 名)
騒音・振動研究会	29. 2. 17	熊本大学	共催
電気音響/音声研究会	29. 3. 1 ～ 2	沖縄産業支援センター	共催
建築音響研究会	29. 3. 3	九州大学大橋キャンパス	共催
支部総会	29. 3. 26	九州大学	出席者 62 名(うち委任状提出者 33)

ウ. 学生表彰

九州支部が主催又は共催した研究発表会, 研究会等における学生の発表を対象として応募者を募り特に優れたものを表彰した。今年度の受賞者は 5 名であった。

エ. 九州支部学会活動貢献賞

九州支部の活動の活性化に多大な貢献が認められる者を対象として贈呈する賞で, 今年は, 金 基弘氏(駿河台大学)を選定した。

(5) 北 陸 支 部

ア. 支部役員会

支部役員会は, 2016 年 4 月, 6 月, 10 月, 2017 年 1 月, 3 月に開催。

イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
支部総会	28. 4. 3	金沢大学サテライト・プラザ	出席者 36 名(うち委任状提出者 17 名)

超音波研究会	28. 6. 10	富山大学五福キャンパス	講演 11 件
電気関係学会北陸支部 連合大会	28. 9. 13 ～ 14	福井工業大学	音波・音響関係部門 講演 4 件(うち招待講演 1 件) 学生優秀論文発表賞 2 件
北陸支部 10 周年記念行事	28. 9. 15	明治安田生命ホール 富山駅前	式典出席者 63 名 記念講演「富山の音」出席者 82 名
聴覚／電気音響研究会	28. 10. 14 ～ 15	国民宿舎能登小牧台	講演 19 件
北陸支部 10 周年記念企画(1)	28. 11. 5	金沢工業大学地域防災 観光科学研究所	研究会「防災について科学的に考えるー音響学の視点からー」 講演 4 件 参加者 35 名
音楽音響研究会	28. 11. 23	金沢工業大学	講演 28 件(ショートプレゼンテーション 3 件, ポスター 25 件)
北陸支部 10 周年記念企画(2)	28. 12. 19	歌劇座(金沢)	シンポジウム「保育と音ー赤ちゃんの耳について考えたことはありますか?ー」 講演 7 件 参加者 82 名
北陸地区学生による研究発表会	29. 3. 4	福井工業高等専門学校	音波・音響部門発表 4 件
北陸支部 10 周年記念企画(3)	29. 3. 26	アパホテル金沢駅前	講演会「北陸での 10 年」 講演 2 件 参加者 16 名

ウ. 表彰

- ・平成 29 年 3 月 3 日, 平成 28 年度優秀学生賞を 8 名に贈呈した。

事業報告書の附属明細書

特に記載すべき重要な事項はありません。